



主のご降誕

おめでとうございます

*Merry Christmas*

*& A Happy New Year!*

つ	ど	ー
644号		
2025/12/24		

〒204-002清瀬市松山一-二-一-二  
TEL〇四二(四九一)〇一〇四  
力トリック清瀬教会

主のご降誕のお祝いと、新年明けましておめでとうございます。私たちは聖年の恵みの時を経て、新しい出会い

## 新たな出会いのはじまり

主任司祭 パウロ 野口邦大

の恵みをいただきました。主

が私たちのもとに来られる出来事は、希望と喜びの証であり、この光を多くの人に伝えていくことがキリスト者としての使命となつております。

日本では、出生数が過去最低を更新し、少子化が加速し、未来への希望が見えづらく、

喜びが実感しづらいものとなっています。また人々のつながりにも陰りが見え、個人主義の台頭や無縁社会と呼ばれる現象、さらには世界情勢が不安定の中につながり、私たちがどのように過ごしていくべきかが、わからなくな

り、「たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失つたら、何の得があろうか」(マタイ16:26)と言わわれている通り、たとえこの世で誰よりも豊かだつたとしても、それらは私たちを救つてはくれません。

ある意味八方塞がりな状況にあっても、それでも、救いに希望を見出しができるのは、主が歴史に入介入し、私たちの中に来られ、共に歩んでくださっているからであり、さらには私たちに死から解放の恵みを与えて下さり、私たちは恐れることな

く、いつも喜びに満たされたり、「たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失つたら、何の得があろうか」(マタイ16:26)と言わわれている通り、たとえこの世で誰よりも豊かだつたとしても、それらは私たちを救つてはくれません。

この世の命を失うことを探れるよりも、「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(マタイ10:28)とあるように、主との交わりを失うことの方が、よっぽど恐ろしいものとなっています。人々が愛を忘れ、自分さえ良ければという考に陥った時こそ、希望は

失われ、絶望が訪れるのです。

命は、交わりにより生まれ育まれるものであり、自分の命を守る事のみを優先させてしまうと、交わりが失われ、そこに不安や後悔、さらには絶望などの孤独に苛まれ、神様との関係性が希薄になってしまいます。

子供が、素直な自分を見せるように、私たちも自分を受け入れ、心を開くことで、他者を受け入れ、交わるものとなります。私たちが神様との関係を築く中で、欺くことのない自分を出し、主が共にいてくださることに感謝して過ごしていきましょう。

愛する兄弟姉妹の皆さん。

二千年以上前、私たちは最初のクリスマスを迎えた。場所も時代も状況も、今とは大きく違っていました。しかし、大切な意味は今も変わりません。それは、キリストが私たちのために来てくださいたということです。神の御言葉が人となり、私たちの間に住んでくださいました。旧約で約束されたメシアが実現し、まさに「インマヌエルー神は我々と共におられる」ということが示されました。

私は、地上の家族だけなく、「神の家族」を祝う時でもあります。救い主であり兄であるキリストによつて、私たちは神の子として迎えられました。

フイリピンで育つた私にとって、クリスマスには特別な思いがあります。世界中が同じ日にクリスマスを祝いますが、フイリピンのクリスマスの雰囲気、人々の温かさ、家族の喜びは特別なもので

す。だからこそ、日本にいる

今、その雰囲気や温かいクリスマスの精神が恋しくなります。

しかし、どこにいても、クリスマスは「家族の祝い」であることに変わりはありません。それは、聖家族－イエス、マリア、ヨセフから始まりました。そして

それは、地上の家族だけなく、「神の家族」を祝う時でもあります。救い主であり兄であるキリストによつて、私たちは神の子として迎えられました。

最初のクリスマスの情景は、とても美しいものです。

ヨセフとマリア、貧しい羊飼い、神を賛美する天使たち、王である幼子に礼拝を捧げた東方の三博士。そこには、

天と地の家族がひとつにな

る姿が表されています。クリスマスが近づくこの時、皆さんのために心から祈ります。

ご家庭や共同体だけでなく、何よりも私たち一人ひとりの心を、主を迎える準備へと向けていきましょう。私たちの心にキリストの居場所を作りましょう。そうすれば、

キリストは家族や教会だけでなく、皆さん一人ひとりの心の内に住んでくださいます。

今年の大聖年のテーマは「希望の巡礼者」です。ですから、共に希望を持つて、喜びの心で主のご降誕を待ち望みましょう。救い主をお迎えできるよう、最善を尽くして準備していきましょう。このクリスマス、キリストの光

クリスマスのメッセージ  
協力司祭  
ドゥカヤグ・アージー

が皆さんのに上に豊かに注がれますように。喜びに満ちた、祝福あふれるクリスマスをお過ごしください。



### 自己紹介

私はアルジー・ドンガヤオ・ドゥカヤグ神父 (Fr. Arjie Donggaya Ducayag) で、神言会 (SVD) に所属しています。一九九四年九月一日に、フィリピン北部、アラスボリネイで生まれました。

二〇一三年に神学院に入る前、私はマナボ・アブラにある「Our Lady of Lourdes 教

会」でロンベントボーイとして働きながら学んでいました。この学校は「ホーリー・スピリット修道会」(ブルーシスター) が運営していました。高校卒業後、私は神学院に入り、四年間哲学を学び、二〇一六年に卒業しました。その後、タガイタイで一年間の志願期 (ポストラント)、ミンドロ・カラパンで一年間の修練期 (ノビシアテ) を行いました。

二〇一七年には、神学院の「Divine Word School of Theology」で神学の勉強を始めました。学士課程を修了した後、二〇一九年に海外研修のため日本にきました。名古屋の南山大学で 2 年間日本語を学びました。その後、一年間秋田で司牧実習を行い

て働きながら学んでいました。この学校は「ホーリー・スピリット修道会」(ブルーシスター) が運営していました。高校卒業後、私は神学院に入り、四年間哲学を学び、二〇一六年に卒業しました。その後、タガイタイで一年間の志願期 (ポストラント)、ミンドロ・カラパンで一年間の修練期 (ノビシアテ) を行いました。

日本での研修を終えた後、私はフィリピンに戻り、司祭叙階に必要な残りの課程を二年間かけて修了しました。そして二〇二四年二月十日、四人のクラスメートとともに、タガイタイの Divine Word Seminary で司祭に叙階されました。その後、初ミサや感謝ミサのために各地を回り、五ヶ月を過ごしました。

二〇一七年には、神学院の「Divine Word School of Theology」で神学の勉強を始めました。学士課程を修了した後、二〇一九年に海外研修のため日本にきました。名古屋の南山大学で 2 年間日本語を学びました。その後、一年間秋田で司牧実習を行い

ました。しかし、ちょうどパンデミックの時期であつたため、学校や教会での活動はとても大変でした。

日本での研修を終えた後、私はフィリピンに戻り、司祭叙階に必要な残りの課程を二年間かけて修了しました。そして二〇二四年二月十日、四人のクラスメートとともに、タガイタイの Divine Word Seminary で司祭に叙階されました。その後、初ミサや感謝ミサのために各地を回り、五ヶ月を過ごしました。

教会学校では、九月二〇二二一日の日程で清瀬教会にてキャンプを行いました。宿泊を伴うイベントは久しぶりのことでの、リーダーたちも試行錯誤を重ねました。子どもたちにとって、新鮮で樂しく、思い出に残るものであったことを願います。

一日目は、まず教会で事前学習をしてから、東村山市にある国立ハンセン病資料館を訪れました。展示をよく見てメモを取る姿や、映像資料を勉強しました。その後、秋津教会と清瀬教会の協力司祭として配属されました。二〇二五年九月十二日に秋津教会と清瀬教会に着任しました。

した。

### 教会学校キャンプ

るというのも良い経験になつたと思います。教会に戻つてから子どもたちは感想を書き、リーダーたちはハンセン病患者へのイエスの癒し（マルコ1・40-45）を題材とするスタンツ（即興劇のようなもの）に挑戦しました。私たちの心身に潜む闇や病を癒すイエスの救いへの希望について、何か感じてくれたでしょうか。

夕食には、わいわいランチのシェフの皆さまが作つてくださいました。多くの子どもを頂きました。多くの子どもがおかわりして、皆で感謝しながら味わいました。夕食の後は花火を行いました。雨も上がり、皆で存分に楽しむことができました。花火を楽しむ子どもたちのきらきらしきが、とても印象的でした。



翌朝、起床時間が少し早かつたために心配していました

た笑顔が印象的でした。お風呂を終えて、聖堂にてろうそくを灯し、祈りの時間を持ちました。一度心を落ち着かせて一日を振り返り、キヤンプのために尽力してくださった方々やお友達、そして神さまに感謝を伝えました。

元気にラジオ体操を行い、朝食を摂つて、皆で共同祈願を考えました。キヤンプにおける学びや感謝を祈りの言葉に込めて、ミサで祈願することができました。

ミサ後、全員で感想を書いた寄せ書きを持つて集合写真を撮影し、祈りをもつて無事キヤンプを終えました。寄せ書きには、子どもたちが楽しかったことを絵とともにたくさん書いてくれました。その姿を見て、無事キヤンプが開催できることに深く感謝しました。久しぶりの宿泊キ

ヤンプで不安もありました  
が、清瀬教会の皆さまのご協力とお祈りによつて、子どももいたようですが、我々リーダーよりよっぽど元気で、子どもたちの溢れるパワーを感じました。

たが、皆元気に起床し、準備していく安心しました。興奮してあまり眠れなかつた子どもいた保護者の皆さま、清瀬教会のシェフの皆さま、信徒の皆さま、そして見守つてくださつた神さまに心から感謝いたします。ありがとうございました。

教会学校



一〇月二六日（日）午後、

コロナ感染症の影響で中断していた、清瀬教会としての墓参が六年ぶりに行われました。十四時に教会をマイクロバスで出発し、現地合流の方々を含めて約三〇名が参

加しました。あいにくの雨でしたが、墓前では贊美と祈りのひと時を持ち、久しぶりに共に集える恵みを覚える時間となりました。

墓地係



北多摩宣教協力体企画  
ミサにより豊かに与るためには  
十一月二日（日）午後  
小平教会主任デイン神父様



と清瀬・秋津教会主任の野口神父様による、一時間にわたるとても内容の濃い講話でした。会場の秋津教会は約三〇名と、想定より大勢の方が参加されました。

前半はデイン神父様の講話で、I. 典礼憲章 第二章「感謝の祭儀に聖なる秘儀」からミサと過越しの神秘、ミサへの行動的参加、II. ローマ・ミサ典礼書の総則第一章「感謝の祭儀の重要性と尊厳」、「言葉の典礼」、「朗読奉仕」の資料を参考にお話ししが進みました。

第二バチカン公会議の刷新で、みんなが一緒にミサをさげることになりました。「ことばの典礼」どのようにミサが構成されているか、総則で決められています。イエス様が自ら制定しました。ミ

「自分たちの信仰の糧」自分が少年の時に、侍者はミサに応えをラテン語で行つていきました。神父は信者に背を向けてミサを行つっていましたが、その後第二バチカン公会議後、今の形式になりました。「典礼憲章」（について解説があり）ミサに与ることで神様の慈しみを受ける、許しを受けることができます。

「ミサへの行動的参加の説明」では、神秘の理解、意識的に敬虔にすることが大切です。

「感謝の祭儀」（お話と資料から）主の食卓を囲むという意味で、典礼全体と同様に、感覚的なしるしを通して行われ、それによつて、信仰が養われ、強められ、表現されます。（中略）この総則は、感謝

サは私たちの信仰生活の糧（中心）、神様と結ばれることが大切です。

「信者の出席と行動的参加」が大切、私たちは典礼委員会、オルガン、朗読者、侍者それが、十分に準備をしなければなりません。

ミサに奉仕する司祭は義務を忘れてはいけない。イエス様はミサの中にいらっしゃることを意識することが大切です。

「感謝の祭儀」（お話と資料から）主の食卓を囲むという意味で、典礼全体と同様に、感覚的なしるしを通して行われ、それによつて、信仰が養われ、強められ、表現され

の祭儀を適切に秩序立て、一般的な原則を述べ、祭儀の各形体を整える規則を提示することを目的としています。

「言葉の典礼」従来は、司祭

「主は皆さんとともに」会

衆「また司祭とともに」といいうミサ応えだつたが、二〇一二年待降節からは「またあなたと共に」に変更になった。「開祭」心を整えた後は、み言葉を聴く、座る姿勢も大切です。

「聖書朗読」福音書は、マタイイ、マルコ、ルカの順に一年ごとに読みられ、今年はC年で主にルカ福音書が読み込まれました（王であるキリストの祝日でC年は終了、次はマタイ福音書が主に読みられます）。（資料より）正しい聖書解釈の大原則として「部分解釈の

禁止」というものがあり、聖書の一部だけをもつてきて論じることはできないとき、福音書の連続性、一体性が大切。

（お話から）連續性、ルカはファリサイ派や徴税人について書かれている部分があり、主に第一朗読の旧約聖書は福音に基づいて選択されます。

「朗読奉仕」通常、朗読は神学生が行い、専任朗読者と呼びます。一般的の教会では信者が行っていますので、これは専任朗読者とは呼びません。

聖書朗読は「神のことば」を告げる奉仕ですので、朗読が終わつた後、会衆を見て「神のみ言葉」という宣言する意味合いが大切です。

休憩の後、野口神父様にバトンタッチされました。

今回は、信仰生活がより豊かになるようという目的で開催しました。

ういったものが行われているか、憐みと慈しみ、受け身なのか、能動なのかについて考えてみたいと思います。とのお話から始まりました。

「ミサでの所作、司祭と会衆のやりとり」司祭がなぜ手を広げるか、十字架を模す、受け入れるか、主から頂く恵を全身で受け入れるなど、司祭の所作、動作には意味があつて行つてることです。

「感謝の典礼（ミサの後半部分）」根本的に、日曜日は主日である、信徒として、キリスト教徒として「聖体をいただくことの重要性を理解することで、主と共に歩む者となつてきます。私たちは、七つの秘跡のひとつ、聖体の秘跡をいただいています。と



にかくご聖体をいたただくことがメイン、大切。ミサは、「言葉の典礼」と「感謝の典礼」の二部に分かれしており、言葉の典礼で、主のみ言葉を

聴いて、自分の中の信仰と重ね合わせていき、感謝の典礼で最後の晩餐を目にする（記念する）ことになります。



「礼に関して」礼の仕方、敬意と栄誉を示す所作、日本では遙る、謙遜の意味が含まれ

ています。軽く頭を下げる礼と深い礼がある。

祈りの中で、三位一体の神様の名前が出たときは、軽く頭を下げる、会心の祈りの時も軽く頭を下げる、自分自身が罪ひとであることを思い起こす所作として大切なことです。

深い礼をするときは、祭壇に向かう時、ご聖体の顯示の時にに行います。日常生活の中でも使い分けているように、こちういつたことは、気づかないうちに行っています。

「沈黙の時間」主の恵みを自分で反芻するときなど。然るべき時には聖なる沈黙を守るべきと言われています。

「奉獻」ご聖体を頂くことが一番重要とされているので、奉獻の祈りを大切にしなければなりません。

「閉祭」交わる共同体であるために、よりよいものを求めて行きたいと思います。

閉会の祈り ディン神父様

「神様の恵みで集いができました。精霊降臨で教会が始まりました、マリア様に感謝して、勉強したことを通して新たになつていきましょう。

資料があつた上での講話ですので、お話を部分だけで全体を理解していくことはとても難しいのですが、雰囲気が伝わればと思い文字にしました。

編集者

清瀬教会 クラシック・チャリティー・コンサート



一二月二〇日（日）、相曾賢一朗さんのバイオリンと、奥様ヴァアレリア・モルゴフスカヤさんのピアノによるコンサートが行されました。十時三十分後、多くの聴衆が待つ中、コンサートは始まりました。冒頭、相曾さんから、ご両親が清瀬教会の信徒であったこと、奥様はウクライナのキリスト教徒で、ご家族はアメリカに移住されたものの、お知り合いが今も戦争で大変な状況にあることなどが紹介されました。

曲目はクラシック作曲「愛の喜び」はじめバイオリン曲としてとても有名な、聴衆もハミングできそうな曲ばかり。

最後は聴衆がスタンディングオーベーションで演奏に応えました。コンサートの終わりに K F F C の聖歌隊があり、相曾さんのバイオリンと大竹仁美さんピアノで2曲演奏、終わりに皆で聖歌を合唱して、コンサートは大盛況のうちに終わりました。



チャリティーは清瀬教会の聖堂建設 営繕のために使われます。

出演者の皆様、コンサートの企画・実行をしてくださった皆さん、ありがとうございました。  
一聴衆

パウロ  
【帰天】  
マリア・マグダlena  
（六地区へ）  
秩父明子さん（四地区へ）  
宮沢清さん（八月）  
田中初枝さん（十月）  
マルティナ  
田村直江さん（十二月）

趙洪畯（ちょうほん  
じゅん）さん（六地区へ）  
マリア鄭喜瑛  
(じよんひよん)さん  
マリア・マグダlena  
（六地区へ）  
秩父明子さん（四地区へ）

【転入】	【転出】
フランシスコ・ザビエル 藤澤了助さん	（さいたま教区所沢教会へ）
マリア藤澤貞子さん（さいたま教区所沢教会へ）	マリア藤澤貞子さん（さいたま教区所沢教会へ）

信徒動向（九月～十二月）



10月バザー 雨でしたが大勢参加しました



9月 敬老ミサ 田村神父様と共に



11月 七五三 健やかに

編集後記  
おかげ様でクリスマス号も発行できました。寄稿、写真の提供をしてくださった皆さん、ありがとうございました。  
Feliz Navidad!  
Pablo 丸山